



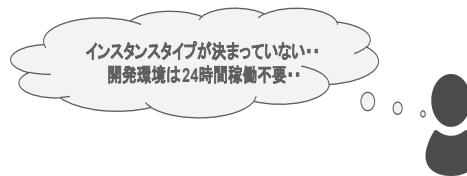
今回の講座では、Savings Plansについて解説します。



購入方法 - リザーブインスタンス(RI)

復習

- 最大72%OFF
- 「一定期間の使用」を前提
- 1年 or 3年で申し込む
- 一定期間は同じインスタンスタイプのEC2を使い続けることを先に申し込み



まずは前回の講座の復習となります。

前回の講座ではリザーブインスタンスについて、詳しく解説しました。オンデマンド料金に比べて **最大72% オフで使用できる購入方法**です。「一定期間の使用」を前提とすることで大幅にコスト削減が出来るサービスです。

特定の AZ で長期的に使用するという前提に基づいて、**1年もしくは3年単位で事前に申し込んでおいて、それから利用する**というような形となります。

つまり、「一定期間は同じインスタンスタイプの EC2を使い続けます。」と先に申し込みすることで安くしてもらうサービスと理解すればよいでしょう。

よって、決まったインスタンスタイプで 24時間稼働し続けるサービスの場合はリザーブインスタンスが条件にあう購入方法となります。

しかし、インスタンスタイプがまだ決まっていなかったり、24時間稼働し続ける必要がない開発環境ではリザーブインスタンスは適していない可能性があります。

では、どのような購入方法が適しているのでしょうか？

このような場合、リザーブドインスタンスよりも Savings Plansがより適した購入方法になります。



購入方法 - Savings Plans (SP)

- 最大72%OFF
- 「一定期間、一定量の使用」を前提
- 1年 or 3年で申し込む
- 予め利用料を計算した上で、一定期間、1時間に何ドル分AWSを使うかを先に申し込み

復習

インスタンスタイプ決まっていなくても大丈夫！
24時間稼働も不要！



こちらでも前回の講座の復習となります。

Savings Plansは長期間インスタンスを利用することを目的とした割引体系です。

こちらでもリザーブドインスタンス同様、**最大72%オフ**で使用できる購入方法です。

こちらの購入方法は「一定期間、一定量の使用」を前提とすることで大幅にコスト削減が出来るサービスです。

1年もしくは3年の期間で特定量を事前に申し込んでおいて、それから利用するというような形となります。

つまり、予め利用料を計算した上で、「一定期間、1時間に何ドル分AWSを使います」と先に申し込みすることで、その額までは割引が効いた利用料にしてくれるサービスと理解すればよいでしょう。

つまり、**インスタンスタイプがまだ決まっていなかったり、24時間稼働し続ける必要がない開発環境でも有効な購入方法となります。**

では、Savings Plansについて詳しく見ていきましょう。



購入方法 - Savings Plans (SP)

➤ タイプ

- Compute Savings Plans
- EC2 Instance Savings Plans

➤ 支払いオプション

- 全額前払い
- 一部前払い
- 前払いなし







Savings Plansを適用する場合には**タイプ**と**支払いオプション**として2つの選択項目があります。
まずはタイプから見ていきましょう。



購入方法 - Savings Plans (SP)

Compute Savings Plans		EC2 Instance Savings Plans	
インスタンスファミリー	○	インスタンスファミリー	×
リージョン	○	リージョン	×
サイズ	○	サイズ	○
OS	○	OS	○
他のコンピューティングサービス	○	他のコンピューティングサービス	×
割引率	中	割引率	高



まずはタイプです。タイプには、Compute Savings PlansとEC2 Instance Savings Plansの2種類があります。厳密にはSageMaker Savings Plansもありますが、EC2には適用できないため今回説明は割愛します。

Compute Savings Plansは**インスタンスファミリー、リージョン、サイズ、OS**に関係なく適用されるため、いつでも異なるインスタンスに自由に移行することができるタイプです。またEC2インスタンスの**他のコンピューティングサービス**である**AWS Lambda、AWS Fargate**など他のサービスに対しても**適用可能です**。

一方、EC2 Instance Savings Plansは**サイズ、OS**は自由に移行できますが、**インスタンスファミリー、リージョン**は固定にする必要があるタイプです。また**他のコンピューティングサービス**に対しては**適用できません**。

そのため、EC2 Instance Savings Plansは、Compute Savings Plansより制約があるもののより**割引率の高いタイプ**となります。

Compute Savings PlansとEC2 Instance Savings Plans、どちらが良いかと言われるとリザーブインスタンスのスタンダードクラスとコンバーティブルクラスと同様にお使いのシステムや長期的な戦略に基づいて変わってくるかと思います。

例えば、将来EC2インスタンスからAWS Fargateへの移行を検討しているとします。

この場合、EC2 Instance Savings Plansを適用していると、AWS Fargateへの移行後に割引を受けることはできません。

そのため、割引率が低くても Compute Savings Plansの方が有利になるという可能性もあります。



購入方法 - Savings Plans (SP)

➤ 支払いオプション

- 全額前払い
- 一部前払い
- 前払いなし(1年のみ)

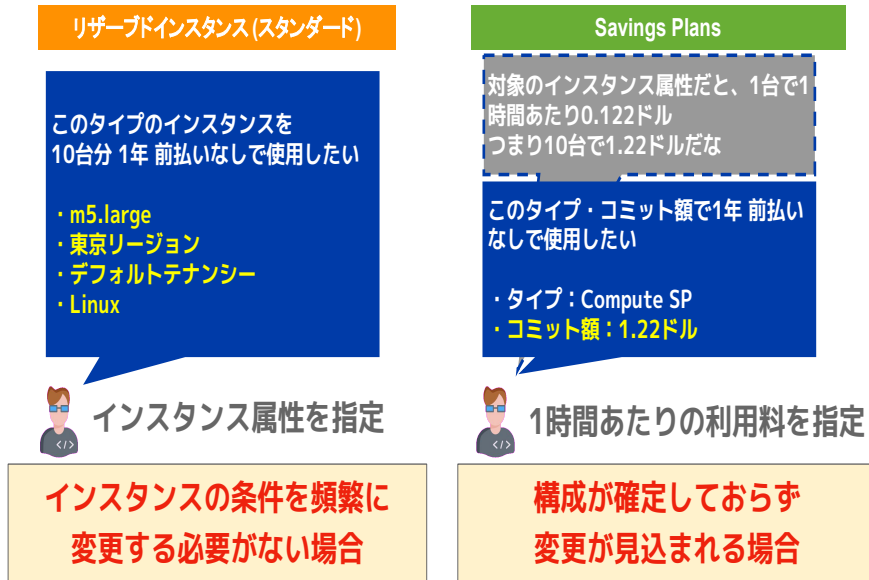


残りの要素であるコミットメント期間と支払いオプションはリザーブドインスタンスと同様です。

コミットメント期間は1年もしくは3年を指定します。

支払いオプションはその名の通り、例えば 1年間の購入申し込みを行いたいなといった時に **全額料金を前払いしておくか**、それとも一切**前払いなし**で毎月請求を受けるか、それとも**一部分は前払い**して残り残額を毎月支払っていくかというオプションになります。

リザーブインスタンス(スタンダード)との違い・使い分け



次にリザーブインスタンスのスタンダードと Savings Plansの違い・使い分けについてです。

リザーブインスタンスのスタンダード と Savings Plans で明確に異なる点は、購入時の指定の仕方です。

リザーブインスタンスのスタンダード場合は、**事前に条件に合致するインスタンスの様々な属性を指定して購入します。**
そのため、制約が厳しく、条件から外れるインスタンスがあった場合、リザーブインスタンスが無駄になる、という事象も起こり得ます。

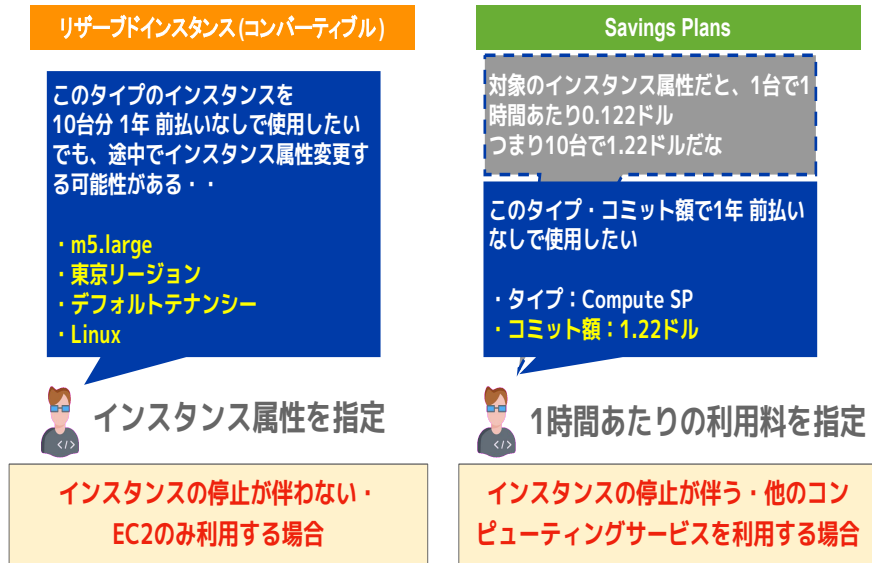
一方で Savings Plansの場合は**条件に合致するインスタンスに相当する金額を自分で計算し、その額をコミット額として支払います。**

Compute Savings Plans・EC2 Instance Savings Plansどちらを選択するかで多少違いはありますが、リザーブインスタンスよりも条件の指定が緩く、幅広いインスタンスに対して最も割引効率が高くなるように自動で適用されます。

そのため、予め構成が決まっており、**インスタンスの条件を頻繁に変更する必要がない場合**にはリザーブドインスタンス、**構成が確定しておらず変更が見込まれる場合**には、Savings Plansを利用するといったように使い分けるようにしましょう。

AWS SAA試験ではインスタンスの購入方法について問われる問題が出題されることがあるので、覚えておきましょう。

リザーブインスタンス(コンバーティブル)との違い・使い分け



最後にリザーブインスタンスのコンバーティブルと Savings Plansの違い・使い分けについてです。

「リザーブインスタンスのコンバーティブルスペック変更できたけど、Savings plansとの違い・使い分けって何だろう？」と疑問に思う方もいるかもしれません。

違いは、先ほどと同様に購入時の指定の仕方です。

リザーブインスタンスのコンバーティブルの場合でも、はじめは事前に条件に合致する **インスタンスの属性** を指定して購入します。一方で Savings Plansの場合は、予め計算して **1時間あたりの利用料** を指定するんですね。

気になる使い分けですが、稼働時間はどれくらいか？どのコンピューティングサービスを利用するか？が押さえるべきポイントになります。

リザーブインスタンスのコンバーティブルの場合は、EC2停止期間中も契約期間中であれば料金が請求されます。そのため、

24時間365日稼働していないインスタンスの場合はコストメリットが受けにくくなります。

よって、**インスタンスの停止が伴わない・EC2のみを利用する場合**には適した購入方法になるでしょう。

一方、Savings Plansの場合は利用料に対して料金が請求されるため、過剰に料金が請求されるという心配はありません。また EC2以外の他のコンピューティングサービス AWS Lambda、AWS Fargateなど対しても適用可能です。そのため、**インスタンスの停止が伴う・他のコンピューティングサービスを利用する場合**には適した購入方法になるでしょう。

「どちらが良いのか」を判断するのは難しいかと思いますが、RI・SP 各々の購入方法や特徴はしっかり押さえておきましょう！